

## 試合に負けても勝負に勝てる人間に！

### 〈『部活動の地域移行について考える』③〉

「校長先生は暇なんですね。」以前、土曜日に、とある部活動の練習試合に顔を出したら、ある生徒からこんな言葉を投げかけられました。

「そうなんだよ、暇なんだよ。」と返して、何とも苦笑いするしかありませんでしたが……。

先週の11月末の連休も、いくつかの部で大きな大会や新人の県大会につながる大会等が開催されていたので、可能な限り会場をはしごして観戦しました。

その日の最後に訪れたのは、男子バスケットボールの試合です。会場で顔見知りの他校の顧問の先生方が何人も声をかけてくれました。その中の先生から、「今日の先生の学校の対戦相手はかなり手強いですよ。かなり厳しい戦いになると思います。」と。

聞けば、対戦相手のチームは、元B1プロリーグの選手だった方が代表を務め、様々な地域や学校からのジュニアから競技歴がある選手が集まっている強豪クラブチームとのこと。

なるほど、試合が始まると、前線から強烈なプレスをかけられてはボールを奪われ、次から次へとゴールを決められました。基礎体力、テクニックともに大きな差があるのは、素人の私が見ても明らかでした。

結果は130対16での敗北。130と16。この数字だけを見れば、惜敗には程遠く、大敗であり完敗です。しかし、負けは負けだけれども、私の中では決して“惨敗”ではありませんでした。試合後、私には清々しさしか残らなかったのです。

点差など関係なしに最後の最後までゴールに向かって必死にプレーする選手のひたむきさ。ゴールが決まれば大喜びしながら子どもたちを盛り上げて応援する保護者のまなざし。試合中ずっと立ち通しでコートサイドを絶えず動きながら喉を枯らして檄を飛ばし続ける顧問の先生（因みに、相手チームの監督は、一度たりとも席を立つことや声を出すことはありませんでした）。

一言で言えば、ナイスゲームでしたし、感動的なゲームでした。観戦していて胸が熱くなりました。実際、保護者の中には、試合中目頭を押さえて応援するお母さんなども見られました。そして、何よりも子どもたち自身がこのゲームを通して学ぶことが多々あったように思います。

練習態度だけでなく普段の学校での生活態度をしっかりと、

練習の合間に校内の清掃・美化活動に率先して取り組んだり、挨拶や礼儀を重んじるなど、バスケットボール部が目指している方向性や部活動としてのあるべき姿が、このゲームでの子どもたちの姿に凝縮されているようでした。

そして、中学校からその競技を始めようが、やればできる、成長する伸びしろは計り知れないという可能性もあらためて確信しました。チームは、まさに試合に負けて勝負に勝ったのだという思いです。

さて、今年度から、中体連の大会にクラブチーム等の参入が認められ、令和8年度の部活動の地域移行に向けて、その流れは今後も加速していくことになります。

その中で最大の関心事は、各種大会の運営やそのあり方です。特に中学校体育連盟のいわゆるこれまでの部活動の核となっていた学校の正規の大会がどうなるのか、そして、現在スポーツ活動で実施している大会や練習会等をはじめ、数々の冠大会はどうなるのか、まだまだ不透明で不安な部分が多くあります。

スポーツをやるからには、大会等で日頃の成果を試したいと思うのは当然ですし、負ければ悔しいし勝てば嬉しいのは人としての摂理です。そういった実戦を通して成長できる機会が、チームの方針や事情、子どもやチームのレベルや目標に応じて、適正であってほしいと思うのです。つまり、学習と同じように、個別最適な活躍の場が保障される部活動改革でありたいものです。

また、たとえ部活動が地域移行になったとしても、学校の部活動が果たしてきた功の側面がしっかり受け継がれ、学校の教職員の知見や経験が十分に活かされる形になってほしいものです。

数年前に、ある大先輩の校長から、こんな忠告をいただいたことがあります。

「いくら時間があつたからといって、校長先生が休みの日に練習試合や大会等に顔を出すのはいかなものか。働き方改革や部活動の地域移行が喫緊の課題の中、休みの日には学校を離れて自分時間を大切にする姿を、校長自らが率先しないとね。」

自分時間を大切にするには賛同しますし、働き方改革の趣旨は重々理解していますが、自分時間をどう使うかは私の勝手なのは、とも思いながら、ありがたいお言葉を拝聴した思い出があります。

大会会場に足を運ぶのは、自分の学校が勝つ姿を見たいからではありません。自分の学校の子どもたちが頑張っている姿を見聞きすることが喜びなのです。暇だと思われる私でも、休みの日には、読書もしますし、映画鑑賞もしますし、家族でラーメンも食べに行きます。でも、子どもたちの光輝く姿以上に、自分にパワーや元気や勇気を与えてくれるものが他に見当たらないのも事実なのです。